

少し歩いただけで、ふくらはぎが重だるい…。 「下肢跛行(はこう)」が疑われる症状に注意。

「みなさんは、『下肢跛行(はこう)』をご存じでしょうか。おそらく一般的には聞き慣れない病気ですが、これは歩行時にふくらはぎなどの筋肉が痛み、歩き続けることが難しい状態のことで、原因としては神経性と血管性のどちらかが考えられます」と話すのは、循環器内科の吉岡亮医師。

「下肢跛行」は加齢とともに発症リスクが高まり、六〇〜七〇歳代に多く、最近では八〇歳以上の患者も増えているとのこと。「症状としては、少し歩いただけでふくらはぎ付近が重だるくなり、マラソンなどの長距離を走ったあのようなダメージ感や痛みの感覚が普段からあります。我慢できる程度であれば問題はありませんが、歩けなくなるほど痛みが強い場合は治療

が必要です」と吉岡医師は指摘する。跛行の症状は、休むと数分でもとに戻るが歩き始めると再度症状が起こるという特徴がある。原因として、神経が骨などに押されるために起こる「神経原性跛行」と足の動脈がせまくなる、もしくは閉塞することによって起こる「血管性跛行」がある。現在、治療法としては薬物療法、理学療法、カテーテル手術、外科的手術があるが、当院では患者の症状に応じてどの治療法にも対応しているとのこと。

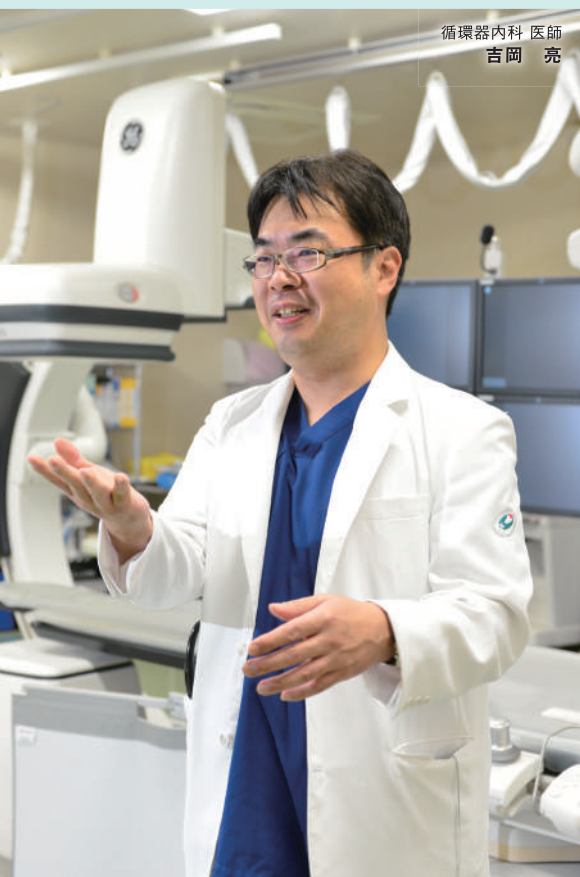
当院の治療体制について吉岡医師は、「神経の圧迫による跛行」は整形外科、「血管の狭窄または閉塞による跛行」は、私が所属する循環器内科で担当しています。神経性と血管性のどちらにも対応で

きるのが当院の強みです」。

吉岡医師は治療法のひとつであるカテーテル手術を長年手がけてきた。その特徴に関しては、「以前のカテーテル手術は再狭窄の確率が高いのがネックでしたが、三年ほど前から『薬剤コーティングバルーンカテーテル』が導入され、表面に薬が塗られたバルーンにより、再狭窄を予防する働きが期待できます。実際、再狭窄の確率が以前に比べ、かなり低減しています」と指摘する。

術後、日常生活で気をつける点について尋ねると、「まずは禁煙、そして積極的に歩いてください。『下肢跛行』は老いとともに進行する疾患のため『一日にどのくらい歩いているか』など、体の状態を自分で意識することが大切です。今はスマホなどで簡単に歩数が確認できますから、こうした疾患を機に、ぜひ健康に留意する習慣を身につけてほしいですね」と話す。カテーテル手術は手術の翌日には、症状の改善がわかることが多いため「患者さんの喜び具合が伝わってきて嬉しい」と話す吉岡医師。健康寿命の伸長、QOL向上のためにも「歩く」を支える当院の診療が注目される。

循環器内科 医師 吉岡 亮



お問合せ 岡山旭東病院
086・276・3231

NEWS

身体と向き合おう 日帰り がんどックのご案内



☑ ベーシック 8万8000円(税込)

PET-CTで、一度に全身[眼窩部(目の下あたり)～大腿基部(足の付け根)まで]のがんや、疾患のリスクをチェックするコース。普段人間ドックを受けていて、がんどック(PET-CT検査)を受けたい方、がんを早期に発見したい方にお勧め。

☑ スタンダード 13万2000円(税込)

ベーシックコースに、腫瘍マーカーを含む血液検査、超音波検査(腹部・甲状腺)を追加し、より検査の精度を向上。人間ドックなどを受けていない方や、がんのリスクをより詳しく調べたい方にお勧め。

24時間いつでも ドックの予約



当院のドックはすべて予約制です。

営業時間を気にすることなく、WEBでの申込みが可能です。

健康センター
HP▶



■お問い合わせ・ご予約は
岡山旭東病院 健康センター

086-276-7870
受付時間 / 平日 10:00～17:00

動画配信のご案内

当院のYouTubeチャンネルにて、転倒予防を中心に健康情報を発信する動画シリーズ「ヘルシーチャンネル」を配信しています。運動方法や自宅の環境整備についてなど、愉しく学べる動画を毎月更新しています。

ぜひチャンネル登録してみてください。

岡山旭東病院
「ヘルシーチャンネル」▶



No.116

2022

3-4月号

850円
(本体773円)

おとな、暮らし、ときどきプレミアム

オセラ

誰かに語りたいくなる。

岡山の
ラーメンを
訪ねて。

まちみち案内

津山市城東・城西地区

日々是好日ー

心と暮らしを整える住まい

SDGsー岡山のいま

とっておきを探しに。／Doctor's Eye